

## 沖縄平和行進報告書

塩釜分会 菊池勇哉

5月15日から3泊4日で沖縄平和行進へ行かせて頂きました。

日本復帰から54年となった沖縄で基地負担の現状などを問う「5・15平和行進」が開催されました。嘉手納基地コースと普天間基地コースでそれぞれ始まり、計約2千人の参加者が歩き出しました。嘉手納は12・2キロ、普天間は11・7キロの道のりです。米軍基地の広さを体感しながら進みました。私たち全港湾は嘉手納基地コースを歩きました。戦争への不安ではなく、夢や希望を語れることが今を生きる私たち大人の責任で、平和行進は基地のない沖縄、平和な日本、戦争のない世界を発信し続ける為、1人1人の思いを力に変え、最後まで力強く歩きました。自分は今回で2回目の参加でしたが、改めて基地の大きさ、規模に圧倒されました。道中、行進の真上を戦闘機が飛び騒音の大きさに度肝抜かれ、日常的にこの音がある生活を送っていると思うと、安全的にも精神的にも危険で苦痛でしかないなと感じました。基地のない日本を、基地のない沖縄を胸に誓いシュプレヒコールを叫びました「命どう宝」安全で安定した安心な世の中を取り戻す為には米軍基地は要らない、改めて感じました。メディアやSNSなどで放送されている内容は美化された内容で、現地に来て目で見て肌で感じる事が大切なのだと思います。1日中歩いて疲れはしましたが、やり切った達成感はとても感じましたし、やっぱり団結してみんなで行く事に取り組む事はとても楽しかったです。その日の夜は沖縄地本主催のBBQでした。行進の感想などを全国の仲間と話をしたり、楽しく交流を深められました。

次の日には平和祈念公園、ひめゆりの塔、海軍指令部壕の視察や沖縄の現状の学習会を行いました。戦争当時のお話や、戦争を経験した方々のお話などを聞き色々考えさせられました。戦争当時、国は戦争の為に法律までも変えて、自分より小さい学生、子供までも戦争に行かせ、尊い命までも落とし、それが当たり前の世の中だった。「生きている事が辛い」戦闘機が真上を飛ぶたびに目まい、吐き気、今もなお心の病と戦っている方々がまだ大勢いるのだと実感しました。年月が経ってもなお戦争はまだ終わって無い、心の悲しみは消えないのだと感じ、より一層米軍基地を無くさないといけないと強く感じました。ホテルに戻り三単産懇親会が行われました。最後の夜と言う事もあり最高に盛り上がり楽しくオリオンビールを飲みました。改めて横の繋がりを感じ、最高の仲間と団結してやり切る事が出来、良かったと思います。

最後になりますが、今回沖縄の地に来れ、自分の目で見て肌で感じる事を出来た事がとても良い経験になりました。これからの組合活動、や生活して行く上で、この経験を語り続け、風化をさせずこの問題としっかり向き合っていきたいと思います。平和行進に行ったことない人達にはこれから参加してほしいです。